

田川地区の県立高校再編整備計画（第2次計画）

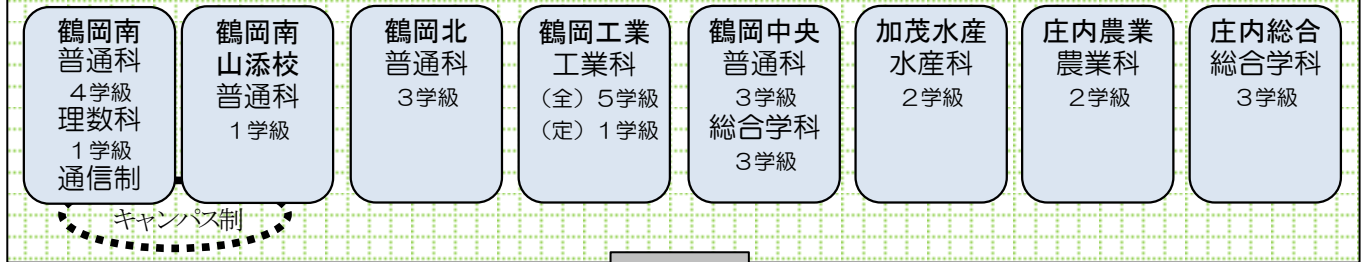
【 概要版 】

平成31年3月
山形県教育委員会

1 第2次計画における学校の配置

県教育委員会は、中学校卒業生数が急激に減少している現状を踏まえ、「第1次計画」*1 に示された平成36年度を目処とする再編整備の方向性と「山形県中高一貫教育校設置構想」*2 の方針を具体化するために、「第2次計画」では、以下のような学校配置とし、開校に向けた準備をしております。

平成31年度の学校配置



第2次計画による再編整備後の学校配置

庄内中高一貫校（仮称）

〔 鶴岡南(全)と鶴岡北を統合し、
県立中学校を新設 〕

高校 普通科 6学級
理数科 1学級
中学校 2～3学級

- ・平成36年度以降、できるだけ早い時期に開校
- ・学区は県内一円
- ・鶴岡南、鶴岡北の敷地、校舎を活用
- ・平成32年度に山添校は募集停止

庄内総合高校

〔 現在の庄内総合に、
昼間定時制・通信制を新設 〕

全日制 総合学科 2学級
定時制(昼) 総合学科 1学級
通信制 普通科 80名

- ・平成34年度開校
- ・学区は県内一円
- ・庄内総合の敷地、校舎を活用
- ・平成33年度末時点での鶴岡南(通)の在籍者は庄内総合(通)に転学

鶴岡中央、加茂水産及び庄内農業の統合校

〔 鶴岡中央、加茂水産及び庄内農業を統合し、
普通科、農業科、水産科、総合学科を併設 〕

普通科 農業科 水産科 総合学科

- ・開校年度、募集定員等は、早期に校舎制*3について検討し明示
- ・鶴岡中央、加茂水産及び庄内農業の敷地、校舎を活用

鶴岡工業高校

工業の6分野を学べる
単科型専門高校

工業科 5学級

- ・平成34年度に定時制は募集停止

*1、*2については、《資料編》3、4をご覧ください。

*3「校舎制」とは、複数の学校を統合した上で、専門学科の実習のために、移設が困難な既存の実習施設を活用する学校運営の形態。

2 学校の特徴

庄内中高一貫校（仮称）

併設型高校
普通科 理数科

併設型中学校

県立中学校と県立高校を併設した庄内地区初となる併設型中高一貫教育校

6年間の継続的な教育活動を通して、生徒の資質・能力を最大限に伸ばす学校

目指す
学校像

※ 平成36年度以降、できるだけ早期の開校を目指す。開校年度は、ハード・ソフト両面に関する様々な条件を精査して、改めて示す。

【主な特色】

- 高校の学習内容を一部先取りするなど、高いレベルの授業を実施
- 大学・研究機関や企業と連携し、自ら設定した課題の解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ探究型の学習を推進
- 外国語教育や理数教育を充実させ、グローバル化に対応した実践的なコミュニケーション能力や、数学的・科学的思考に基づき判断・表現できる力を育成
- 庄内の自然、産業、文化などに関わる体験活動の充実

庄内総合高校

全日制 総合学科

定時制(昼) 総合学科

通信制 普通科

多様な形態の学びが可能な県内初の全日制、定時制(昼)、通信制併設高校

地域とともに自立した社会人の養成を目指す学校

目指す
学校像

【主な特色】

- これまでの全日制総合学科に加え、新しく定時制(昼)総合学科及び通信制普通科を設置し、生徒個々の多様な学習ニーズに応える総合的な高校
- 普通教科と専門教科から豊富な選択科目を開設し、大学等への進学や就職などに幅広く対応
- 少人数指導による基礎学習の充実、学び直しへも対応
- 地域資源を生かした実習・体験型の学習の充実
- 外部機関と連携したソーシャルスキルトレーニング等、社会的な自立に向けた支援

鶴岡中央、加茂水産及び庄内農業の統合校

普通科

農業科

水産科

総合学科

目指す学校像

普通科、農業科、水産科、総合学科を併設した総合的な高校

各学科の特色を明確にしつつ、学科間が連携し、幅広いニーズに対応できる学校

※ 統合の年度、募集定員、教育内容、教員配置、施設・設備の整備等は、早期に検討を行い、方向性が定まった時点で公表する。

【主な特色】

- 普通科では、複数のコースを設け、他学科と連携し、充実したキャリア教育や探究型学習を実施
- 農業科、水産科では、専門教育を充実させるとともに、他学科と連携し、6次産業化などを学習
- 総合学科では、他学科と連携し、これまで以上に多様な選択科目を開設し、充実したキャリア教育や探究型学習を実施
- 学校行事、生徒会活動、部活動などを全学科の生徒が一体となって実施

【校舎制の導入に伴う課題への対応】

普通科目の授業は主に鶴岡中央の校舎で、農業・水産の実習などは主に庄内農業及び加茂水産の校舎での実施を想定している。生徒の校舎間の移動にかかる負担軽減のため、マイクロバスによる輸送や、時間割の工夫等を検討する。また、実習施設の維持・管理のため、実習教員の配置や勤務形態、業務委託などを検討する。

3 今後のスケジュール（予定）

年度	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
新しい学校づくり	庄内中高一貫校（仮称）	教育基本計画の策定	開校整備委員会			開校準備委員会	中高一貫校の開校	
	庄内総合高校	教育基本計画の策定	開校整備委員会	開校準備委員会	庄内総合の定通の新設			
	鶴岡中央、加茂水産、庄内農業の統合校	校舎制等に関する検討			校舎制による新高校の開校準備			
学級減対象校	鶴岡北	鶴岡中央（総）	山添校 募集停止		庄内総合 鶴岡工（定） 募集停止 （閉校）	加茂水産	鶴岡南（普）	（閉課程）

《資料編》

1 田川地区の中学校卒業生数の推移及び県立高校の定員充足状況

《田川地区の中学校卒業生数の推移》

	平成 16 年	平成 26 年	平成 36 年	平成 46 年(推計)
中学校卒業生数	2,046 人	1,567 人	1,244 人	約 940 人
10 年前との差	—	-479 人	-323 人	約-300 人
対平成 16 年比	—	76.6%	60.8%	約 46%

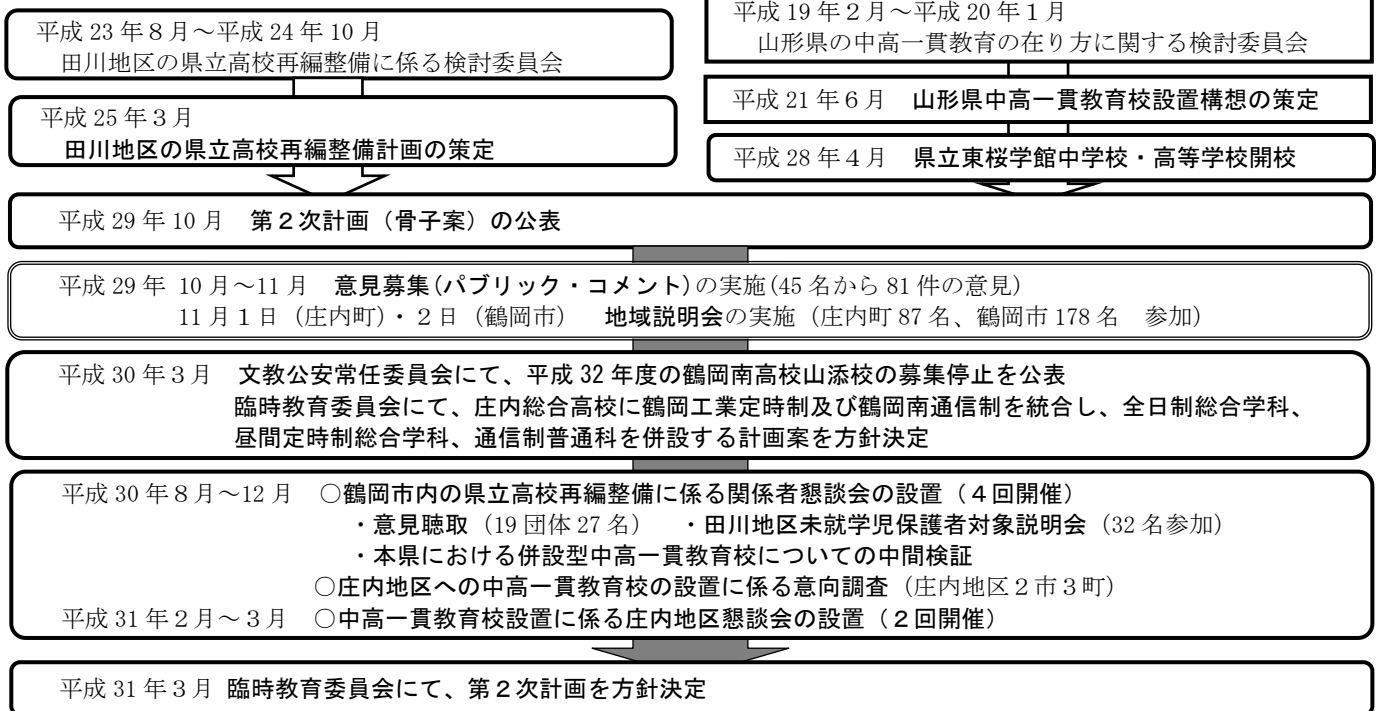
《田川地区の県立高校の定員充足率（平成 30 年度入試）》

	鶴岡南	山添	鶴岡北	鶴岡工 (全)	鶴岡工 (定)	鶴中央	庄内農	加茂水	庄内総
定員	200 人	40 人	120 人	200 人	40 人	280 人	80 人	80 人	120 人
入学者	200 人	26 人	120 人	196 人	6 人	267 人	65 人	37 人	104 人
充足率	100%	65%	100%	98%	15%	95%	81%	46%	87%

2 田川地区の県立高校再編整備に係るこれまでの経緯

【県立高校再編整備に係る主な経緯】

【中高一貫教育校設置に係る主な経緯】



3 田川地区の県立高校再編整備計画「第 1 次計画」（平成 25 年 3 月策定）の要点

平成 27 年度から平成 36 年度の 10 年間で、入学定員を 8 学級程度削減する。

- ・普通科は 2 校に集約し、工業科は単科型専門高校とする。
- ・農業科、水産科は、総合学科と連携し、小規模化が更に進行した場合、校舎制導入を検討。
- ・総合学科は、当面は現在の 2 校配置を維持し、在り方を検討する。
- ・定時制・通信制等を統合し、多様なニーズに対応する。

4 山形県中高一貫教育校設置構想の要点

当面、内陸地区と庄内地区にモデル校を設置し、実践を検証した上で、将来的には県内 4 学区への設置を検討する。普通科を基本とし、早期の設置に努める。

（問い合わせ） 山形県教育庁高校教育課高校改革推進室
電話 023-630-2493 Fax023-630-2774